資料４

仙台塩釜港長期構想２０２６（新旧対応）

仙台塩釜港長期構想2026～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

新（第4回委員会資料）

p 16

変更点（第3回委員会意見の反映）

変更点（ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ意見の反映）

戦略4（観光・交流戦略）
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

- インバウンドの更なる増加を見据え、クルーズ船寄港や松島観光等の需要に各港区が連携して対応するとともに、円滑な二次交通の確保、広域交通網を生かした周遊ルートの構築などにより、地域、背後圏を含む広域観光振興に貢献するゲートウェイ港湾を目指します。
- 賑わい拠点となるウォーターフロントの形成をはじめ、マリンレジャーや自然景観、文化・歴史的施設などを生かした各港区・地域ならではの魅力ある目的地づくりを推進することにより、人流の増加や滞在時間の延長など地域経済の活性化に貢献していきます。

地域、広域観光をつなぐ海の玄関口



※(県内広域道路ネットワーク)宮城の道路2025より

クルーズ船の区分と各港区の基本的な対応方針

規模	全長目安	乗客数目安	各港区の対応
大型	360 ~300m	約6,000人 ~2,000人	仙台港区 現状 / 石巻港区 現状 / 塩釜港区
中型 ~大型 増加傾向	320 ~250m	約3,000人 ~1,000人	
小型 ~中型	250 ~150m	約1,000 ~100人	
小型	150 ~90m	約300 ~50人	

※仙台は一定程度を想定

国土交通省資料を基に作成

インバウンドの更なる増加(地方誘客の重要性↗)

外国クルーズ船寄港需要の増加
寄港地(現状) 仙台港区 石巻港区(物流港)(工業港)
・貨物船利用との調整
・仮設テントでの対応

港区・地域、広域観光資源の活用
寄港地・周辺地域
広域

クルーズ船受入機能や環境の不足
二次交通の不足(量・手段)
中・小型クルーズ船寄港需要の増
貴重な体験を求める観光需要の増加
観光消費拡大リピーター確保
地域住民と来訪者の交流活性化
地域と広域をつなぐ広域交通網との連携

港区間の補完・連携によるクルーズ船の受入対応力強化
観光客の快適で円滑な移動の確保
陸上・海上の交通連携による周遊ルート構築
地域ならではの魅力ある目的地づくり
官民の多様な事業主体との連携

インバウンドの更なる増加、人流の増大を取り込み、地域経済の活性化に貢献

地域の賑わいにも繋がる東北の広域観光ゲートウェイ

※(下段観光資源フォト)宮城県商工経済観光部観光課提供

16

旧（第3回委員会資料）

p 20

戦略4（観光・交流戦略）
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

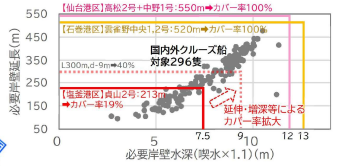
- インバウンドの更なる増加を見据え、クルーズ船寄港や松島観光等の需要に各港区が連携して対応するとともに、円滑な二次交通の確保、広域交通網を生かした周遊ルートの構築などにより、地域、背後圏を含む広域観光振興に貢献するゲートウェイ港湾を目指します。
- 賑わい拠点となるウォーターフロントの形成をはじめ、マリンレジャーや自然景観、文化・歴史的施設などを生かした各港区・地域ならではの魅力ある目的地づくりを推進することにより、人流の増加や地域経済の活性化に貢献していきます。

地域、広域観光をつなぐ海の玄関口



※(県内広域道路ネットワーク)宮城の道路2025より

◆各港区主要岸壁のクルーズ船カバー率



インバウンドの更なる増加(地方誘客の重要性↗)

外国クルーズ船寄港需要の増加
寄港地(現状) 仙台港区 石巻港区(物流港)(工業港)
・貨物船利用との調整
・仮設テントでの対応

港区・地域、広域観光資源の活用
寄港地・周辺地域
広域

クルーズ船受入機能や環境の不足
二次交通の不足(量・手段)
中・小型クルーズ船寄港需要の増
貴重な体験を求める観光需要の増加
観光消費拡大リピーター確保
地域住民と来訪者の交流活性化
地域と広域をつなぐ広域交通網との連携

港区間の補完・連携によるクルーズ船の受入対応力強化
観光客の快適で円滑な移動の確保
陸上・海上の交通連携による周遊ルート構築
地域ならではの魅力ある目的地づくり
官民の多様な事業主体との連携

インバウンドの増大を取り込み、人流の増加や地域経済の活性化に貢献

地域の賑わいにも繋がる東北の広域観光ゲートウェイ

※(下段観光資源フォト)宮城県商工経済観光部観光課提供

20

新（第4回委員会資料）

p 18

変更点（第3回委員会意見の反映）

3.2 各戦略における主要施策

戦略1（物流戦略）
宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに
貢献する最高の港湾物流サービスの提供

主要施策 1 グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現

仙台塩釜港を宮城・東北の国際・国内物流拠点として機能強化し、利便性・安定性を備えた高度なコンテナ物流サービスの提供を実現するため、ターミナルの拡張・再編やデジタル化（DX）の推進、国際海上輸送網の拡充、鉄道輸送を含む陸上輸送とのシームレスな連携などを一体的に進めることで、東北と世界を結ぶ物流の結節点としての港湾機能を高め、グローバルゲートウェイの形成を図ります。

①需要増加を見据えたターミナルの拡張と利用効率化・高度化に向けた機能再編

■将来の貨物需要の増加を見据えたコンテナ取扱能力の強化やターミナル内の機能再編時における代替スペースの確保に加え、浚渫土砂処分のための海面処分場の確保や新たな土地需要に対応する用地の確保等の観点から、計画的にターミナルの拡張を図り、持続的かつ強靭な物流基盤の形成を推進します。

▼ターミナルの拡張



（将来における拡張の必要性）コンテナ取扱能力の強化/機能再編時
の代替スペース/浚渫土砂の海面処分場/新たな需要への対応用地

■遠隔操作に対応した荷役機械の導入や荷役形式の転換により作業効率を向上させ、安全性と生産性の向上を図ります。



▲遠隔操作に対応した荷役機械の導入



▲荷役効率化に向けた荷役形式の転換

18

旧（第3回委員会資料）

p 22

3.2 各戦略における主要施策

戦略1（物流戦略）
宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに
貢献する最高の港湾物流サービスの提供

主要施策 1 グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現

仙台塩釜港を宮城・東北の国際・国内物流拠点として機能強化し、利便性・安定性を備えた高度なコンテナ物流サービスの提供を実現するため、ターミナルの拡張・再編やデジタル化（DX）の推進、国際海上輸送網の拡充を一体的に進めることで、東北と世界を結ぶ物流結節点としての港湾機能を高め、グローバルゲートウェイの形成を図ります。

①需要増加を見据えたターミナルの拡張と利用効率化・高度化に向けた機能再編

■将来の貨物需要の増加を見据えたコンテナ取扱能力の強化やターミナル内の機能再編時における代替スペースの確保に加え、浚渫土砂処分のための海面処分場の確保や新たな土地需要に対応する用地の確保等の観点から、計画的にターミナルの拡張を図り、持続的かつ強靭な物流基盤の形成を推進します。

▼ターミナルの拡張



（将来における拡張の必要性）コンテナ取扱能力の強化/機能再編時
の代替スペース/浚渫土砂の海面処分場/新たな需要への対応用地

■遠隔操作化に対応した荷役機械の導入や荷役形式の転換により作業効率を向上させ、安全性と生産性の向上を図ります。



▲遠隔操作化に対応した荷役機械の導入



▲荷役効率化に向けた荷役形式の転換

22

仙台塩釜港長期構想2026～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

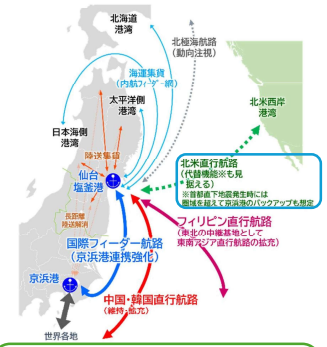
新（第4回委員会資料）

p 20

変更点（第3回委員会意見の反映）
変更点（ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ意見の反映）
変更点（第4回幹事会意見の反映）

③多様な貨物需要に対し安定的な輸送を実現・提供する国際海上輸送網の拡充・強化

■フィーダー網の充実による国際戦略港湾との連携強化や国際ダイレクト航路の拡充、荷主ニーズに対応したコンテナ取扱機能の拡充に取り組むとともに、農林水産品・食品輸出や生活関連物資輸送なども含め、地域産業や住民生活を支える安定的かつ多様な海上輸送サービスを確保します。

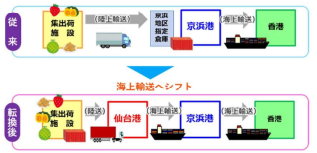


航路	主な寄港地	船社	便数
中国/韓国	釜山・釜山新港・蔚山・光陽（韓国）・/大連・天津新港・青島・上海・寧波(中国)	南星海運 高麗海運	週３便
韓国	釜山・釜山新港(韓国)	長錦商船興亜LINE	週２便
中国	上海(中国)	SITC Container Lines	週１便
フィリピン	厦門・汕頭・蛇口(中国)・/スービックベイ・バタンガス・マニラ(フィリピン)	CMA CGM (CNC)	週１便
極東ロシア	釜山(韓国)・/ウラジオストク(ロシア)	FESCO	隔週１便

国際コンテナ船定期航路（2026 年３月時点）

・国際戦略港湾との連携強化（フィーダー網）
・国際ダイレクト航路の拡充
・新規航路開拓への挑戦

▼農産品の輸出における海上輸送転換例



・海上輸送への転換を支援する充実した輸送サービスの提供


リーファーコンテナ


危険品コンテナ

▲取扱機能の拡充

■国際海上輸送網の拡充とともに鉄道輸送を含む陸上輸送とのシームレスな連携などを一体的に進めることで、東北と世界を結ぶ物流結節点としての港湾機能を高め、グローバルゲートウェイの形成を図ります。



広域道路ネットワーク計画図（R3. 6. 30時点）出典：東北地方整備局提供



出典：JR日本貨物鉄道株式会社Webサイトを基に宮城県作成

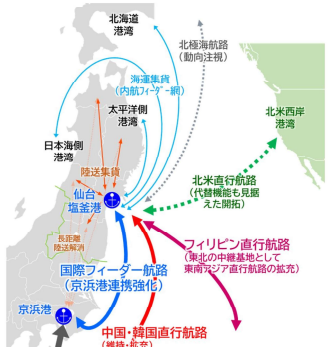
20

旧（第3回委員会資料）

p 24

③多様な貨物需要に対し安定的な輸送を実現・提供する国際海上輸送網の拡充・強化

■フィーダー網の充実による国際戦略港湾との連携強化や国際ダイレクト航路の拡充、荷主ニーズに対応したコンテナ取扱機能の拡充に取り組み、安定的かつ多様な海上輸送サービスを確保します。



航路	主な寄港地	船社	便数
中国/韓国	釜山・釜山新港・蔚山・光陽・大連・天津新港・青島・上海・寧波	南星海運 高麗海運	週3便
韓国	釜山・釜山新港	長錦商船興亜LINE	週2便
中国	上海	SITC Container Lines	週1便
フィリピン	厦門・汕頭・蛇口・南沙・スービックベイ・バタンガス・マニラ	CMA CGM (CNC)	週1便
極東ロシア	釜山・ウラジオストク	FESCO	隔週1便

国際コンテナ船定期航路
（2026 年３月時点）

・国際戦略港湾との連携強化（フィーダー網）
・国際ダイレクト航路の拡充
・新規航路開拓への挑戦


←リーファーコンテナ

▼農産品の輸出における海上輸送転換例



・海上輸送への転換を支援する充実した輸送サービスの提供

危険品コンテナ→



▲取扱機能の拡充

24

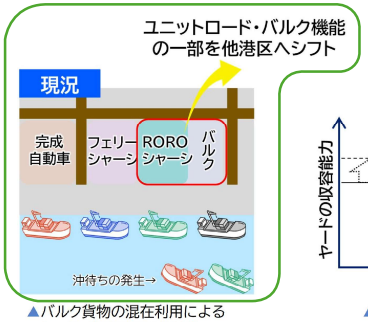
新（第4回委員会資料）

p 23

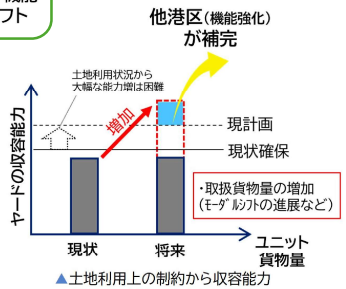
変更点（第4回幹事会意見の反映）

③ユニットロード・バルク貨物の混在による輻輳解消と将来の輸送力不足を補う港区間連携の推進と機能強化

■ユニットロード貨物とバルク貨物が混在することで、ヤード・岸壁利用の過密化や将来の収容能力不足により処理容量・スピードの低下が懸念されます。このため、一部のユニットロード・バルク機能の他港区へのシフト（移転）やターミナル機能等の強化を図ります。

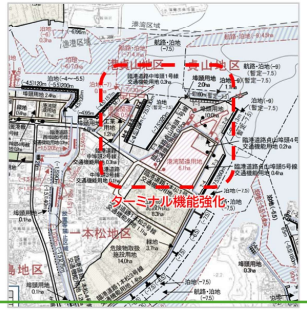


▲バルク貨物の混在利用による
ヤード・岸壁利用の過密化



▲土地利用上の制約から収容能力
が需要に対応できない可能性

▼（例）塩釜港区において想定されるターミナル機能の強化



ユニットロード・バルク機能の一部を他港区が補完

旧（第3回委員会資料）

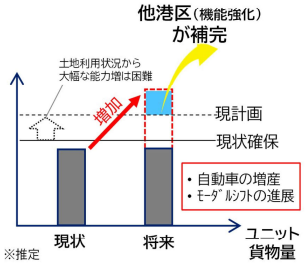
p 27

③ユニット・バルク貨物との混在解消と将来の輸送力不足を補う港区間連携の推進と機能強化

■ユニットロード貨物とバルク貨物が混在することで、ヤード・岸壁利用の過密化や将来の収容能力不足により処理容量・スピードの低下が懸念されます。このため、一部のユニットロード・バルク機能の他港区へのシフト（移転）や、ターミナル機能およびアクセス機能の強化を図ります。

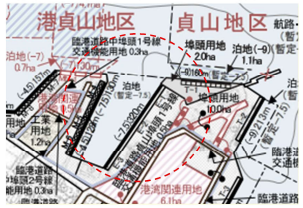


▲バルク貨物の混在利用による
ヤード・岸壁利用の過密化



▲土地利用上の制約から収容能
力が需要に対応できない可能

（例）塩釜港区での対応を想定した場合



・ターミナル機能強化
・アクセス機能強化

バルク・ユニットロード機能の一部を他港区が補完

新（第4回委員会資料）

p 24

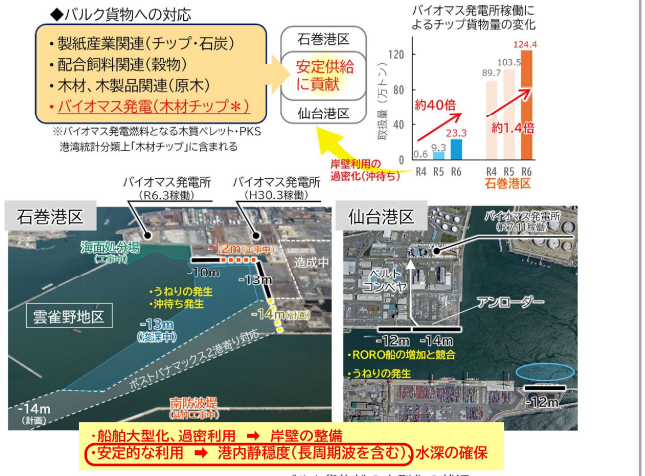
変更点(第3回委員会意見の反映)

主要施策 3 臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化

臨海部に立地する産業の安定的な操業を支えるため、バルク貨物の安定的な受入体制の確保と港湾機能の強化を図ります。船舶大型化や物流需要の変化に対応し、安全性・効率性の高いバルク貨物の物流基盤を整備することで、地域産業活動を支える港湾機能を強化します。

①大型貨物船の安全・安心かつ安定的な利用に資する港湾機能の強化

■製紙産業関連貨物（チップ・石炭）や配合飼料関連貨物（穀物）、木材・木製品関連貨物（原木）、バイオマス発電関連貨物（木材チップ）などのバルク貨物の安定供給の向上を図ります。特にバイオマス発電所の稼働に伴うパームヤシ殻等の取扱量の急増によって岸壁利用の過密化（沖待ち）の発生や船舶の大型化を踏まえ、岸壁の整備を進めるとともに、静穏度・水深の確保により安全性の向上を図り、安全で安定的かつ競争力のある港湾利用環境の整備に取り組みます。



バルク貨物船の大型化の状況

呼称（載貨重量トン）	長さ	満載喫水	必要水深	世界の船舶数・シェア 2000年 → 2020年
ハンディサイズ（1～3万トン級）	174m	9.8m	10.8m	3,947隻 73.6% → 7,482隻 62.6%
ハンディマックス（4～6万トン級）	203m	10.8m	11.9m	
パナマックス（6～8万トン級）	225m	12.7m	14.0m	1,396隻 26.1% → 4,476隻 37.4%
ポストパナマックス（10万トン級）	264m	15.2m	16.8m	大型化が進展

現状機能で対応（整備中含む）
※石巻港区：雲雀野地区
※仙台港区：中野地区、向洋地区
バルク戦略港湾との連携に対応
※釧路港→石巻港区

出典：国土交通省資料を基に宮城県作成

24

旧（第3回委員会資料）

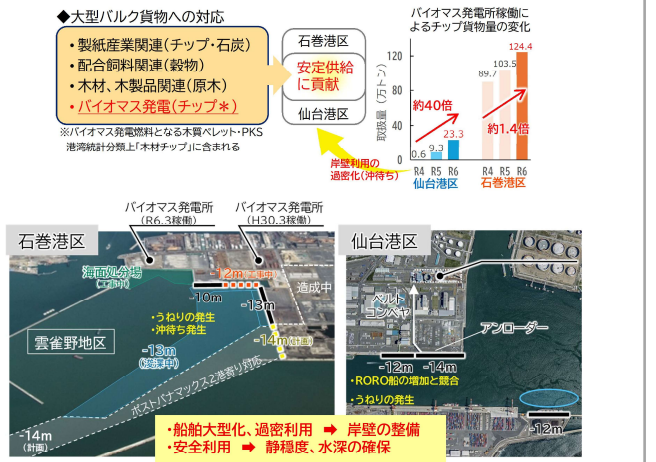
p 28

主要施策 3 臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化

臨海部に立地する産業の安定的な操業を支えるため、バルク貨物の安定的な受入体制の確保と港湾機能の高度化を図ります。船舶大型化や物流需要の変化に対応し、安全性・効率性の高いバルク貨物の物流基盤を整備することで、地域産業活動を支える港湾機能の強化を推進します。

①大型貨物船の安全・安心かつ安定的な利用に資する港湾機能の強化

■製紙産業関連貨物（チップ・石炭）や配合飼料関連貨物（穀物）、木材・木製品関連貨物（原木）、バイオマス発電関連貨物（木材チップ）などの大型バルク貨物の安定供給の向上を図ります。特に、バイオマス発電所の稼働に伴うパームヤシ殻等の取扱量の急増によって岸壁利用の過密化（沖待ち）の発生や船舶の大型化を踏まえ、岸壁の整備を進めるとともに、静穏度・水深の確保により安全性の向上を図り、安全で安定的かつ競争力のある港湾利用環境の整備に取り組みます。



バルク貨物船の大型化の状況

呼称（載貨重量トン）	長さ	満載喫水	必要水深	世界の船舶数・シェア 2000年 → 2020年
ハンディサイズ（1～3万トン級）	174m	9.8m	10.8m	3,947隻 73.6% → 7,482隻 62.6%
ハンディマックス（4～6万トン級）	203m	10.8m	11.9m	
パナマックス（6～8万トン級）	225m	12.7m	14.0m	1,396隻 26.1% → 4,476隻 37.4%
ポストパナマックス（10万トン級）	264m	15.2m	16.8m	大型化が進展

現状機能で対応（整備中含む）
※石巻：雲雀野地区
※仙台：中野、向洋地区
バルク戦略港湾との連携に対応
※釧路港→石巻港区

出典：国土交通省資料を基に宮城県作成

28

仙台塩釜港長期構想2026～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

新（第4回委員会資料）

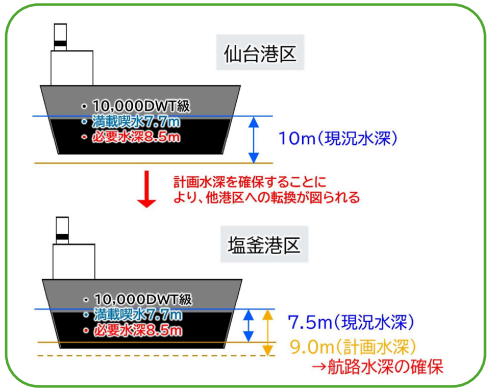
p 25

変更点（第3回委員会意見の反映）

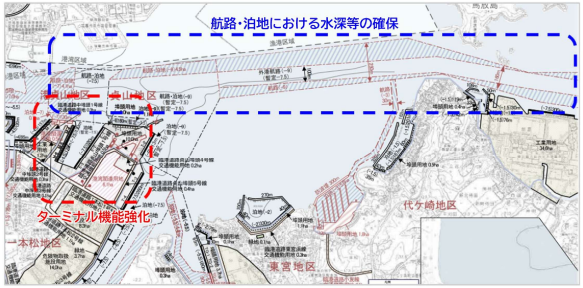
変更点（第4回幹事会意見の反映）

②ユニットロード・バルク貨物の混在による輻輳解消に向けた港区間連携の推進と機能強化（一部再掲）

■ユニットロード貨物とバルク貨物の混在による岸壁やヤード利用の輻輳解消に向け、小型バルク貨物の取扱いを特定地区へ集約するとともに、集約に対応可能な航路・泊地の水深等の確保など港湾機能の強化を図り、貨物特性に応じた効率的で安定的な物流体制の構築を推進します。



▲シフト対象貨物の貨物船の比較



▲（例）塩釜港区港湾計画図（現計画）

バルク貨物のシフトに対応可能な航路・泊地の水深等の確保

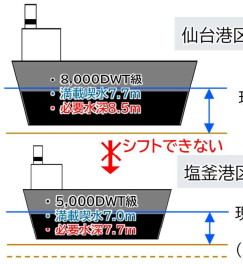
25

旧（第3回委員会資料）

p 29

②ユニットロード・バルク貨物の輻輳解消に向けた港区間連携の推進と機能強化（一部再掲）

■ユニットロード貨物とバルク貨物の混在による岸壁やヤード利用の輻輳解消に向け、小型バルク貨物の取扱いを特定地区へ集約するとともに、集約に対応可能な水深の確保など港湾機能の強化を図り、貨物特性に応じた効率的で安定的な物流体制の構築を推進します。



▲シフト対象貨物の貨物船の比較
（水産冷凍船の場合）

（例）塩釜港区港湾計画図（現計画）



バルク貨物のシフトに対応可能な水深の確保

29

新（第4回委員会資料）

p 28

変更点（第3回委員会意見の反映）

変更点（第4回幹事会意見の反映）

②DX によるヒトの支援に加え、多様な人材が活躍出来る職場環境づくりとその魅力発信

■DX の活用による業務の効率化や労働環境の改善、労働力不足への対応を進めるとともに、港湾運送業をはじめとする多様な職種が集う総合港湾としての魅力を発信し、将来を担う港湾人材の確保を図ります。さらに、学生向けワークショップ等を通じて港湾の役割や仕事の魅力を発信し、港湾産業への理解促進と人材の裾野拡大を推進します。



出典：国土交通省資料

▲労働環境整備（DX による取組含む）



出典：国土交通省資料

▲港湾運送の魅力発信



出典：「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」

▲学生ワークショップの実施等による港湾の魅力向上に向けた検討

28

旧（第3回委員会資料）

p 32

②DX によるヒトの支援に加え、多様な職種が集う総合港湾の「職場」としての魅力発信

■DX の活用による業務の効率化や労働環境の改善を進めるとともに、港湾運送業をはじめとする多様な職種が集う総合港湾としての魅力を発信し、将来を担う港湾人材の確保を図ります。さらに、学生向けワークショップ等を通じて港湾の役割や仕事の魅力を発信し、港湾産業への理解促進と人材の裾野拡大を推進します。



出典：国土交通省資料

▲労働環境整備（DX による取組含む）



出典：国土交通省資料

▲港湾運送の魅力発信



出典：「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」

▲学生ワークショップの実施等による港湾の魅力向上に向けた検討

32

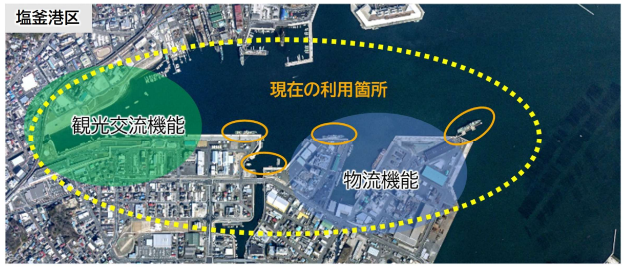
新（第4回委員会資料）

p 31

変更点（第4回幹事会意見の反映）

③海上保安基地として巡視船艇を適切に収容可能な空間の確保

■塩釜港区には東北太平洋沿岸海域を管轄する第二管区海上保安本部が大小様々な巡視船艇を保有しており、海上保安基地としてこれら巡視船艇を平常時は勿論のこと災害時にも円滑に運用できるよう、収容可能な空間を物流や人流と機能分離する形で確保します。





現在の利用状況、物流・観光面の利用を踏まえて適切に配置

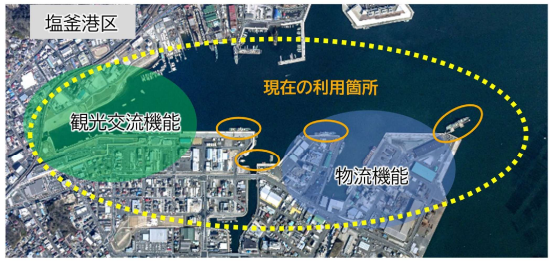
31

旧（第3回委員会資料）

p 35

③海上保安基地として巡視船を適切に収容可能な空間の確保

■塩釜港区には東北太平洋沿岸海域を管轄する第二管区海上保安本部が大小様々な巡視船を保有しており、海上保安基地としてこれら巡視船を平常時は勿論のこと災害時にも円滑に運用できるよう、収容可能な空間を物流や人流と機能分離する形で確保します。





現在の利用状況、物流・観光面の利用を踏まえて適切に配置

35

新（第4回委員会資料）

p 44

変更点(ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ意見の反映)

戦略4(観光・交流戦略)
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

主要施策 1 各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化

仙台塩釜港が、国内外のクルーズ船や旅客船など宮城県のゲートウェイとしての役割を果たすため、各港区の港湾施設条件やフェリー・旅客船の就航状況、陸上公共交通機関とのアクセス性等を踏まえ、各港区が連携・補完することで宮城・東北の広域観光ゲートウェイの形成を目指します。

①需要増大が見込まれる中・小型クルーズ船への対応力の強化

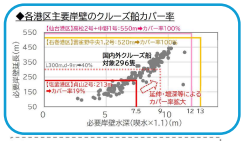
■宮城・東北の良さを満喫してもらうため、港湾エリアや観光地の飲食・物販施設の収容能力や２次交通の確保、オーバーツーリズム対策などを勘案し、大型クルーズ船だけでなく、中型・小型のクルーズ船の積極的な誘致に取り組みます。クルーズ船受入れに際しては、訪問予定の背後圏観光地との位置関係、航路水深や岸壁延長など港湾スペック、貨物船との利用調整や受入上限等を考慮し、各港区の連携・補完体制を構築して受け入れを行うよう取り組みます。

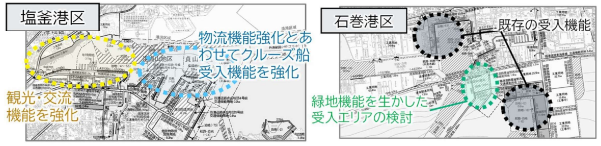
クルーズ船の区分と各港区の基本的な対応方針

規模	全長目安	乗客数目安	各港区の対応
大型	360 ～300m	約6,000人 ～2,000人	仙台港区 ※仙台は一定程度を想定 / 石巻港区
中型 ～大型	320 ～250m	約3,000人 ～1,000人	
小型 ～中型	250 ～150m	約1,000 ～100人	塩釜港区
小型	150 ～90m	約300 ～50人	

増加傾向

国土交通省資料を基に作成





▲機能強化の考え方

小型・中型級をターゲットに塩釜港区の受け入れ促進

旧（第3回委員会資料）

p 48

戦略4(観光・交流戦略)
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

主要施策 1 各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化

仙台塩釜港が、国内外のクルーズ船や旅客船など宮城県のゲートウェイとしての役割を果たすため、各港区の港湾施設条件やフェリー・旅客船の就航状況、陸上公共交通機関とのアクセス性等を踏まえ、各港区が連携・補完することで宮城・東北の広域観光ゲートウェイの形成を目指します。

①需要増大が見込まれる中・小型クルーズ船への対応力の強化

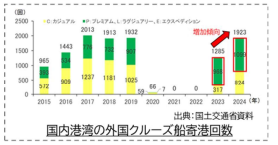
■宮城・東北の良さを満喫してもらうためには、港湾エリアや観光地の飲食・物販施設の収容能力や２次交通の確保、オーバーツーリズム対策などを勘案し、大型クルーズ船だけでなく、中型・小型のクルーズ船の積極的な誘致に取り組みます。クルーズ船受入れに際して、訪問予定の背後圏観光地との位置関係、航路水深や岸壁延長など港湾スペック、貨物船との利用調整等を考慮したうえで、いずれかの港区で受け入れするよう取り組みます。

クルーズ船の区分と各港区の基本的な対応方針

区分	規模	全長目安	乗客数目安	各港区の対応
カジュアル	大型	360 ～300m	約6,000人 ～2,000人	仙台港区 ※仙台は一定程度を想定 / 石巻港区
プレミアム	中型 ～大型	320 ～250m	約3,000人 ～1,000人	
ラグジュアリー	小型 ～中型	250 ～150m	約1,000 ～100人	塩釜港区
エクスペディション	小型	150 ～90m	約300 ～50人	

増加傾向

国土交通省資料を基に作成





▲機能強化の考え方

小型・中型級をターゲットに塩釜港区の受け入れ促進

新（第4回委員会資料）

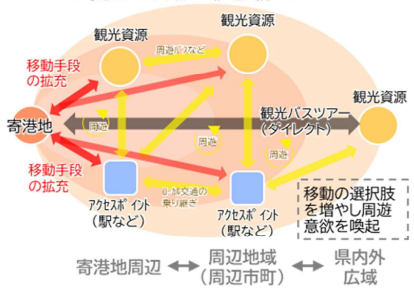
p 46

変更点（第3回委員会意見の反映）

③クルーズ船寄港地から周辺地域間、広域圏への円滑な二次交通の連携・確保を推進

■クルーズ船寄港地からの２次交通機関の確保が課題であり、観光バスやタクシーなど既存の交通機関に加え、レンタサイクルやスローモビリティなど新たな交通手段を含め、寄港地周辺の観光スポットや最寄り駅など近距離圏内の周遊性を高める取り組みなど、多様な方がアクセスしやすい二次交通体系の構築について官民連携して取り組みます。また、周辺市町や県内外の広域エリアの観光には、公共交通機関を最大限利用するため MaaS など ICT の利活用で多様な選択肢を増やし周遊意欲向上に努めます。さらに、訪日外国人が ICT 機器を使いやすいよう寄港地における Wi-Fi アクセスポイントの充実や公共交通機関における多言語表記・ピクトグラム活用を推進します。

▼寄港地から広域への移動連携のイメージ



▼移動手段の例（従来＋将来）

エリア	移動手段
寄港地周辺	徒歩、レンタサイクル、タクシー、スローモビリティ、パーソナルモビリティなど
周辺地域	タクシー、路線バス、周遊バス、遊覧船、鉄道（在来線、臨時便）、小型モビリティ（AIガイド付）、自動運転シャトルバス、MaaS連携、など
県内外広域	鉄道（在来線）、高速バス、観光バス・タクシーなど



※生成AI　※生成AI　出典：国土交通省資料

寄港地から周辺地域の観光スポットや最寄り駅など、
比較的近距離の周遊性の高い移動手段を充実化

46

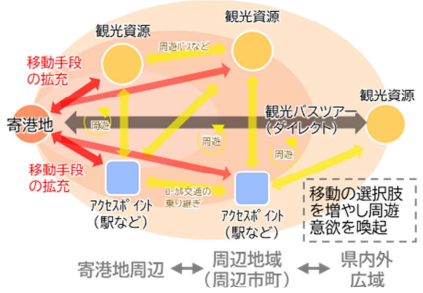
旧（第3回委員会資料）

p 50

③クルーズ船寄港地から周辺地域間、広域圏への円滑な二次交通の連携・確保を推進

■クルーズ船寄港地からの２次交通機関の確保が課題であり、観光バスやタクシーなど既存の交通機関に加え、レンタサイクルやスローモビリティなど新たな交通手段を含め、寄港地周辺の観光スポットや最寄り駅など比較的近距離間は周遊性の高い移動手段の充実に取り組みます。また、周辺市町や県内外の広域エリアの観光には、公共交通機関を最大限利用するため MaaS など ICT の利活用で選択肢がわかるよう取り組みます。さらに、訪日外国人が ICT 機器を使いやすいよう寄港地における Wi-Fi アクセスポイントの充実や公共交通機関における多言語表記・ピクトグラム活用を推進します。

▼寄港地から広域への移動連携のイメージ



▼移動手段の例（従来＋将来）

エリア	移動手段
寄港地周辺	徒歩、レンタサイクル、タクシー、スローモビリティ、パーソナルモビリティなど
周辺地域	タクシー、路線バス、周遊バス、遊覧船、鉄道（在来線、臨時便）、小型モビリティ（AIガイド付）、自動運転シャトルバス、MaaS連携、など
県内外広域	鉄道（在来線）、高速バス、観光バス・タクシーなど



※生成AI　※生成AI　出典：国土交通省資料

寄港地から周辺地域の観光スポットや最寄り駅など、
比較的近距離の周遊性の高い移動手段を充実化

50

新（第4回委員会資料）

p 47

変更点(ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ意見の反映)

変更点(第4回幹事会意見の反映)

主要施策 2 地域の賑わい拠点となるウォーターフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進

港湾エリアのなかで、旅客船発着所やシンボル緑地、水辺にアクセスできる海浜など地域の賑わい拠点となるウォーターフロントの形成においては、民間活力の活用も含め計画的に推進し、地域住民や来訪者が交流できる魅力ある観光の目的地となるよう取り組みます。

①みなとオアシスの活性化と港湾エリアの観光・交流拠点機能の強化

■地域住民の交流や来訪者による観光の振興など、みなとを核とした住民参加によるみなとまちづくりや地域振興の取り組みが継続的に行われるみなとオアシスが各港区で展開されるよう取り組みます。また、各港区内で拠点施設と周辺施設を結ぶ回遊ルートに加え、港区間を結ぶ海上・陸上の回遊ルート設定に取り組むとともに、利用者の快適性の確保等によるホスピタリティの向上に取り組みます。



塩釜港旅客ターミナル再活性化基本構想（塩竈市）

・基本コンセプト
何度も訪れたくなる、海に出会える楽しさと癒しの空間

海と繋がる／一体的な空間／観光利便性／普段使い

港奥部の一体的な利用空間を形成し、拠点機能を強化



出典：国土地理院ウェブサイトの地図を基に宮城県作成
(https://maps.gsi.go.jp/#15/38.269892/141.005273/&base=pale&ls=pale%7Cminato&disp=11&lcd=minato&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0)

13施設が1つのみなとオアシスを構成

番号	施設名
①	三井アウトレットパーク仙台港
②	仙台港国際ビジネスサポートセンター
③	みやぎ産業交流センター
④	中野緑地（修景緑地）
⑤	フェリー埠頭ターミナル
⑥	中央公園（NX仙台港パーク）
⑦	向洋海浜公園（やまやシーサイドパーク）
⑧	キリンビール仙台工場
⑨	キリンビアポート仙台
⑩	天然温泉海神の湯ドーミーイン EXPRESS仙台シーサイド
⑪	中野中央公園
⑫	仙台うみの杜水族館
⑬	高砂中央公園

・港湾空間と商業空間の連携構築
・港湾空間への人流の誘導策（魅力的なコンテンツ）

47

旧（第3回委員会資料）

p 51

主要施策 2 地域の賑わい拠点となるウォータフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進

港湾エリアのなかで、旅客船発着所やシンボル緑地、水辺にアクセスできる海浜など地域の賑わい拠点となるウォーターフロントの形成に計画的に取り組み、地域住民や来訪者が交流できる魅力ある観光目的地づくりに取り組みます。

①みなとオアシスの活性化と港湾エリアの観光・交流拠点機能の強化

■地域住民の交流や来訪者による観光の振興などみなとを核とした住民参加によるみなとまちづくりや地域振興の取り組みが継続的に行われるみなとオアシスが各港区で展開されるよう取り組みます。また、各港区内で拠点施設と周辺施設を結ぶ回遊ルートに加え、港区間を結ぶ海上・陸上の回遊ルート設定に取り組みます。



塩釜港旅客ターミナル再活性化基本構想（塩竈市）

・基本コンセプト
何度も訪れたくなる、海に出会える楽しさと癒しの空間

海と繋がる／一体的な空間／観光利便性／普段使い

港奥部の一体的な利用空間を形成し、拠点機能を強化



出典：国土地理院ウェブサイトの地図を基に宮城県作成
(https://maps.gsi.go.jp/#15/38.269892/141.005273/&base=pale&ls=pale%7Cminato&disp=11&lcd=minato&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0)

13施設が1つのみなとオアシスを構成

番号	施設名
①	三井アウトレットパーク仙台港
②	仙台港国際ビジネスサポートセンター
③	みやぎ産業交流センター
④	中野緑地（修景緑地）
⑤	フェリー埠頭ターミナル
⑥	中央公園（NX仙台港パーク）
⑦	向洋海浜公園（やまやシーサイドパーク）
⑧	キリンビール仙台工場
⑨	キリンビアポート仙台
⑩	天然温泉海神の湯ドーミーイン EXPRESS仙台シーサイド
⑪	中野中央公園
⑫	仙台うみの杜水族館
⑬	高砂中央公園

・港湾空間と商業空間の連携構築
・港湾空間への人流の誘導策（魅力的なコンテンツ）

51

新（第4回委員会資料）

p 49

変更点(第3回委員会意見の反映)

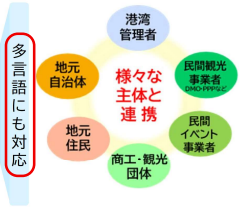
変更点(ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ意見の反映)

③観光客のみならず、地域住民や港湾労働者にも親しまれる快適な港湾空間の整備

■観光客だけでなく、地域住民や港湾労働者の日常使いも意識し、利用者の多様性や様々な利用形態に配慮した緑地機能の確保や利用者の快適性確保によるホスピタリティの向上に取り組みます。また、規模が大きくポテンシャルのある緑地については、民間事業者などさまざまな主体と連携した賑わいづくりを推進します。

◆様々な利用形態を踏まえた緑地機能の確保

用途	具体例	対応例
憩いの場	読書、休憩、散歩	休憩所、ベンチ、芝生広場
交流	地場産品販売会（常設マーケット、マルシェ）	広場や交流施設
教育・体験	船の見学、自然観察や体験	桟橋、親水施設
健康・運動	ウォーキング、親水レクリエーション	遊歩道、親水施設、健康遊具
観光・賑わい	景観、カフェ、祭り、花火、コンサート	展望施設、集客施設、催事施設



▲環境整備の対応イメージ

◆利用者の快適性の確保事例



日除け施設(休憩所)



屋根付き浮桟橋



デジタルサイネージ

（出典：国土交通省）

日常使いを意識した環境整備、地域景観と連携した賑わい拠点形成の推進

49

旧（第3回委員会資料）

p 53

③観光客のみならず、地域住民や港湾労働者にも親しまれる快適な港湾空間の整備

■地域住民の日常使いを意識して、海辺の景観を活かした緑地の散策路や休憩施設、災害時の避難場所にもなる緑地の展望施設などの環境整備を推進します。また、規模が大きくポテンシャルのある緑地については、民間事業者などさまざまな主体と連携した賑わいづくりを推進します。

◆様々な利用形態を踏まえた緑地機能の確保

用途	具体例	対応例
憩いの場	読書、休憩、散歩	休憩所、ベンチ、芝生広場
交流イベント	地場産品販売会、フリーマーケット	広場や交流施設
教育・体験	船の見学、自然観察や体験	桟橋、親水施設
健康・運動	ウォーキング、親水レクリエーション	遊歩道、親水施設、健康遊具
観光・賑わい	景観、カフェ、祭り、花火、コンサート	展望施設、集客施設、催事施設



▲環境整備の対応イメージ

◆利用者の快適性の確保事例（出典：国土交通省）



日除け施設(休憩所)



屋根付き浮桟橋



デジタルサイネージ

日常使いを意識した環境整備、地域景観と連携した賑わい拠点形成の推進

53

新（第4回委員会資料）

p 53

変更点（第3回委員会意見の反映）

変更点（ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ意見の反映）

4. 仙台塩釜港の長期的な空間利用方針

4.1 長期的な空間利用の考え方

■港湾空間利用方針（ゾーニング）とは

限られた港湾空間を計画的・効率的に利用するため、港のエリアを用途や機能（ゾーン）ごとに区分するもの。

■仙台塩釜港のゾーニングの基本方針■

○ 仙台塩釜港に対する多くの要請を「総合港湾」として一元的に受け止め、全体的に空間利用の効率化を図る。

○ 具体の機能配置においては、現有機能を十分考慮するほか、「総合港湾」における連携・補完の考え方に基づき、既存ストックを最大限に活用するとともに、新たに必要となる空間利用（開発）を展開する。

○ なお、長期的な需要見通しや利用状況を踏まえ、交流拠点ゾーン、緑地レクリエーションゾーン、船だまり関連ゾーンなど一部の配置を見直し、引き続き、周辺環境への配慮や賑わいの創出等に留意する。

ゾーニングの基本的な分類

分類	凡例	利用の内容
物流関連ゾーン		物流ターミナルとして利用するふ頭用地、倉庫用地等
生産ゾーン		港湾に関連した生産・加工工場等の敷地、そのための専用ふ頭
エネルギー関連ゾーン		石油、ガス等危険物を取り扱う用地、そのための係留施設等
船だまり関連ゾーン		作業船、ボートサービス船、観光庁船、漁船等を係留する空間
交流拠点ゾーン		観光やイベントなど、港湾を通じた国内外の様々な交流活動を推進するエリアや施設用地
緑地レクリエーションゾーン		海洋性レクリエーションのための海浜やマリーナ、港湾関係者や地域住民が利用する緑地等
環境保全ゾーン		自然環境や景観の保全・再生を図る空間
将来構想		将来の港湾需要に応じて、開発・利用を図る空間

53

旧（第3回委員会資料）

p 57

4. 仙台塩釜港の長期的な空間利用方針

4.1 長期空間利用の考え方

■港湾空間利用方針（ゾーニング）とは

限られた港湾空間を計画的・効率的に利用するため、港のエリアを用途や機能（ゾーン）ごとに区分するもの。

■仙台塩釜港のゾーニングの基本方針■

○ 仙台塩釜港に対する多くの要請を「総合港湾」として一元的に受け止め、全体的に空間利用の効率化を図る。

○ 具体の機能配置においては、現有機能を十分考慮するほか、「総合港湾」における連携・補完の考え方に基づき、既存ストックを最大限に活用することで、新たな空間利用（開発）を最小限とする。

○ なお、新たな空間利用においては、長期的な需要見通しを踏まえ、適切に配置するとともに、周辺環境への配慮、自然環境との調和に留意する。

ゾーニングの基本的な分類

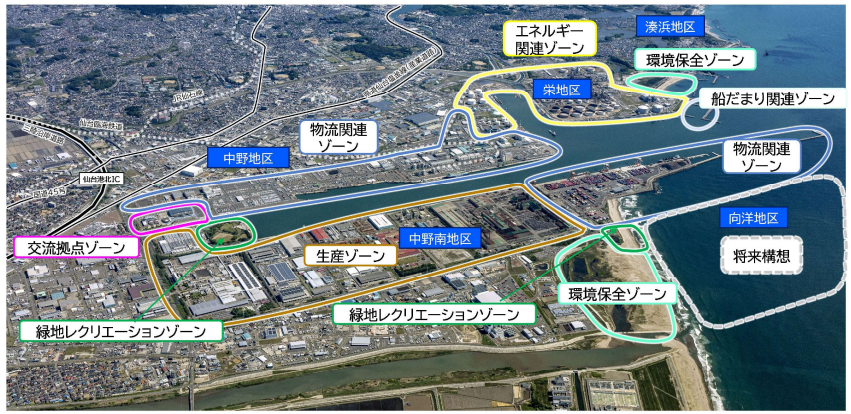
分類	凡例	利用の内容
物流関連ゾーン		物流ターミナルとして利用するふ頭用地、倉庫用地等
交流拠点ゾーン		観光やイベントなど、港湾を通じた国内外の様々な交流活動を推進するエリアや施設用地
生産ゾーン		港湾に関連した生産・加工工場等の敷地、そのための専用ふ頭
エネルギー関連ゾーン		石油、ガス等危険物を取り扱う用地、そのための係留施設等
緑地レクリエーションゾーン		海洋性レクリエーションのための海浜やマリーナ、港湾関係者や地域住民が利用する緑地等
環境保全ゾーン		自然環境や景観の保全・再生を図る空間
船だまり関連ゾーン		作業船、ボートサービス船、観光庁船、漁船等を係留する空間
将来構想		将来の港湾需要に応じて、開発・利用を図る空間

57

新（第4回委員会資料）	旧（第3回委員会資料）
p 54	p 58
変更点（第3回委員会意見の反映）	

4.2 長期的な空間利用計画

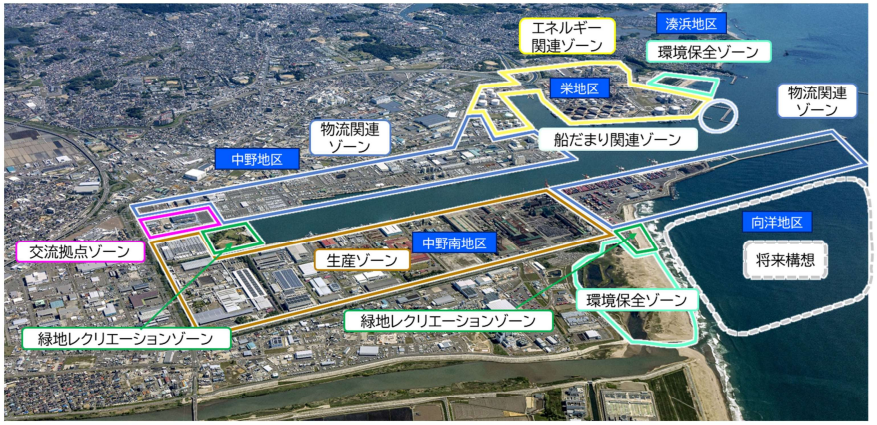
■仙台港区



54

4.2 長期空間利用計画

■仙台港区



58

新（第4回委員会資料）

p 56

変更点（第3回委員会意見の反映）

■塩釜港区

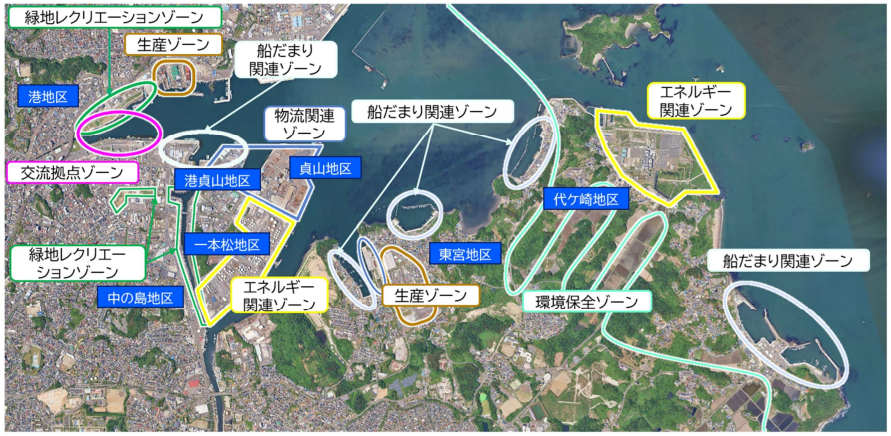


56

旧（第3回委員会資料）

p 60

■塩釜港区



60

新（第4回委員会資料）

p 58

変更点（第3回委員会意見の反映）

■石巻港区



58

旧（第3回委員会資料）

p 62

■石巻港区



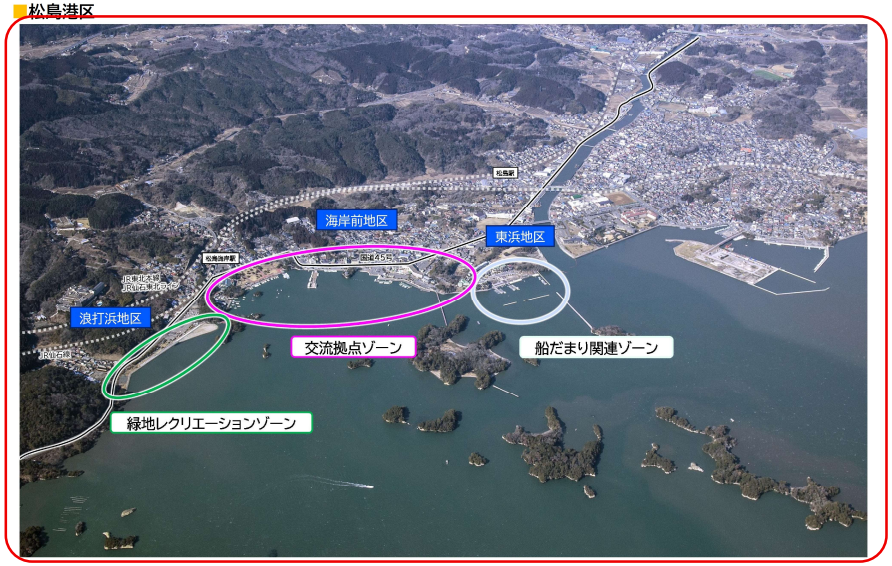
62

新（第4回委員会資料）

p 60

変更点(第3回委員会意見の反映)

■松島港区



60

旧（第3回委員会資料）

p 64

■松島港区



64

新（第4回委員会資料）	旧（第3回委員会資料）
p 資料-17 変更点（第3回委員会意見の反映）	―

3)各視点における課題･論点整理

４つの視点における課題・論点を総括し、それぞれの基本戦略（柱）に繋げます。

物流

◆先行き不透明な国際社会情勢や労働力不足など近年の港湾を取り巻く環境変化にあるものの、国内におけるモーダルシフトの進展や政府の成長投資にもとづく官民の投資による内需拡大などを見据え、**今後の需要増加に対応する港湾機能の再編が必要である。**

◆船舶の大型化等に対応した港湾機能の強化はもとより、港区間の適切な連携やデジタル技術の活用も含めた港湾（ターミナル）利用の最適化・効率化・利便性の向上など、**ソフト・ハードの両面での質の高い港湾サービスの提供**が求められている。

◆こうした港湾サービスの向上に加え、京浜港や東北各地と繋がる広域物流拠点としての強みを生かしたポートセールスを戦略的に推進し、**更なる貨物需要の創出を図る**ほか、港湾の魅力向上により**将来の担い手確保にも貢献**することが期待されている。

防災・施設維持

◆東日本大震災や能登半島地震の教訓を踏まえ、大規模災害発生時における港湾機能の持続性確保のみならず、雌半島や東北・首都圏港湾等への広域的支援を見据えた、**災害に強く強靭な広域海上防災拠点港湾**としての機能強化や体制構築が必要である。

◆機能面では、**耐震強化岸壁の整備**に加え、老朽化対策や水深確保など**維持管理の計画的な実施が重要**であり、港区間の機能再編を見据えた既存ストックの更新・再構築や各港区における浚渫土砂の適正処分と用地需要に対応した海面処分場の確保なども含めて、総合的に対応する必要がある。

◆他港の被災や地震以外の災害など様々な事象を捉え、物流・緊急物資等の両面から広域支援に対応できるよう、**港湾 BCP の充実強化**を図るとともに、平時から適切に整備・運用することで、港湾の魅力、信頼性の向上にも繋がることが期待されている。

環境

◆2050 年の脱炭素社会実現に貢献する国際拠点港湾として、**カーボンニュートラルポート形成の計画的な推進**が求められており、港湾の事業活動における**脱・低炭素化、次世代エネルギーの供給需要等に各港区が連携して対応**する必要がある。

◆海洋環境の変動に対応し、**地域の独自景観や貴重な生態系**を資源と捉え、**保全と共生に取り組む**ことが求められている。

観光・交流

◆地域及び背後圏を含む広域観光振興に貢献するゲートウェイとして、**クルーズ・インバウンドの受入れ機能・環境の充実化**に加え、日本三景松島を含む港区間の連携や広域交通網を生かした**周遊ルートの構築**、**円滑な二次交通の確保**などが求められている。

◆ベイエリアにおける人流増加や地域経済の活性化を図るため、来訪客や地域にも親しまれるウォーターフロントの形成、海水浴やマリンレジャー、自然景観や文化・歴史的施設などを生かした**各港区・地域ならではの魅力ある目的地づくり**に取り組む必要がある。

資料 - 17

該当頁なし

仙台塩釜港長期構想2026～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～【概要版】

新（第4回委員会資料）	旧（第3回委員会資料）
概要版 p 6/6 変更点(ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ意見の反映)	－



該当頁なし